



縄張り図

用語解説

- **曲輪**
土塁などで囲んで作られた区画。
- **土塁**
敵を防ぐために土を盛り固めて作られた土手。
- **虎口**
曲輪の出入り口。敵から簡単に攻め破られないよう工夫がされている。
- **馬出**
虎口の外側に土塁や堀で設けた空間で、敵の出入りを食い止める虎口を守る役割を持つ。
- **堀**
曲輪の周辺に沿って長く土を掘ったところ。

戦国山城ファン必見

滝山城跡

国史跡 続日本100名城

城主：北条氏照（北条氏の三代目氏康の三男）



滝山城跡のPR動画はこちらから！

昭和26年に国史跡に指定された滝山城跡は、中世城郭の最高傑作といっても過言ではなく、空堀・土塁・馬出等の遺構は極めて良好な状態です。1521年頃に多摩一帯を治めていた大石氏により築城されたと伝えられていますが、のちに小田原から勢力を拡げていった北条氏の支城となりました。この頃から滝山城は、北関東への進攻拠点及び甲斐の武田氏に備える砦としての役割を担うようになり、城を継承した北条氏照のもとで大拡張が繰り返されました。こうして築き上げられた滝山城は、北を多摩川、南を谷地川に

挟まれるように東西およそ900メートルに及び、平山城としては東日本最大級の広さを誇るまでとなりました。また、滝山城の最大の特徴ともいえる複雑な地形を巧みに活かして構成された縄張からは、北条氏の築城能力の高さがうかがえます。屈指の堅城との呼び声も高く、1569年頃には武田信玄が率いる2万の軍勢からの猛攻に対し、わずか2千の北条勢で守り抜いたといわれています。このほか、市内には氏照が築城し、滝山城にかわる本拠地となった「日本100名城」の八王子城跡があります。



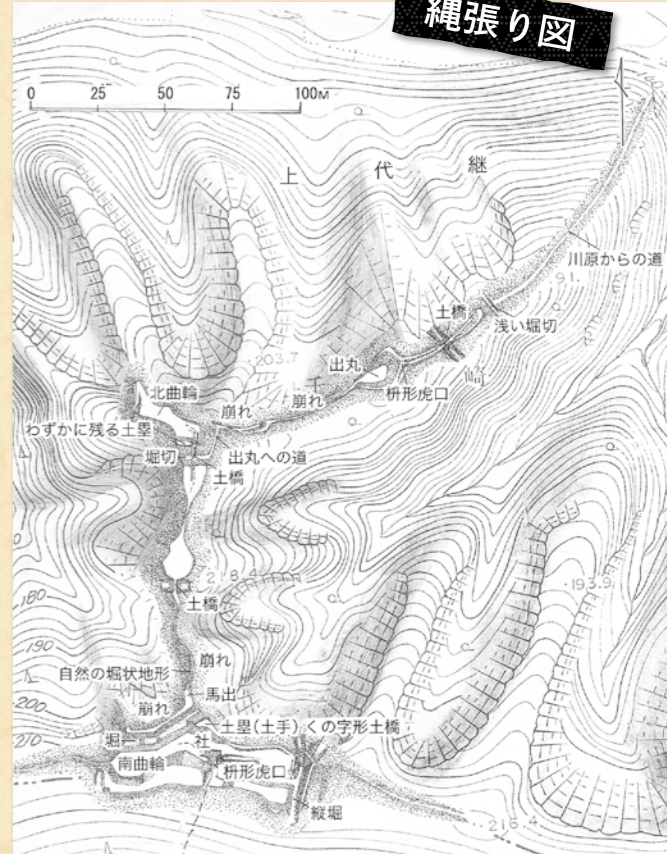
縄張り図

高月城跡

滝山城のルーツ

城主：大石定重

高月城跡は、大きく蛇行する秋川と多摩川の合流点近くに位置し、流れに突き出るような形になった加住北丘陵の自然の要害を利用した平山城となっています。武蔵国守護代大石氏により築城され、大石氏の勢力拡大に伴い手狭となった高月城から滝山城へ拠点を移したと伝えられていることから、高月城は滝山城のルーツになった城といえます。
※高月城跡内は、通路を除き民有地となっております。マナーを守って散策を楽しんでください。



縄張り図

根小屋城跡

自然の要害を活かした

(戸吹城跡)

城主：不明

北方に秋川が流れる加住北丘陵の断崖上に位置する根小屋城跡ですが、主郭部周辺は変形が進んでいるため、縄張の詳細が把握しにくく謎が多い山城です。直線距離にして180メートル程度の小さい平山城ではありますが、残存する堀や土塁の跡からは、自然の要害を最大限に利用していたことがうかがえ、少数でも効果的に守れるよう工夫された山城であったといえます。城跡内を通るハイキングコース「かたらいの路」では、周辺の風景を楽しみながら散策することもできます。
※根小屋城跡内は、急峻で両側が崖の尾根道が続いており、先端部へ行くにつれて崩落が進んでいます。危険な場所への立ち入りはお控えください。

リニューアルしました!

AR 滝山城跡



AR(拡張現実)を使って散策しながら滝山城跡の歴史が学べる無料の観光アプリ。都立滝山公園内11か所に設置されたARマーカースマートをスマートフォンやタブレット端末で読み取り、まわりの風景にかざすことで、約450年前に広がっていたであろう<戦国の名城・滝山城>の世界観が体感できます。下記のQRコードからアプリをダウンロードし、ロマン溢れる歴史ツアーへいざ出陣!!

※都立滝山公園内は電波状況が悪い場合がございますので、アプリのダウンロードは公園に入られる前にお済ませください。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

